かかみがはら

巨木・名木めぐり

各務原市図書館
113705768

各務原市　緑のまちづくり推進委員会

53
オ

各務原市長
平野喜八郎

みどりは語る

人間は太古の昔から自然の恵みの中で、人間自身も自然の一部として生活してきました。しかし、人間のおごりもあって、今では地球規模での自然破壊や環境破壊の進行が大きな問題となっています。外国のこと、隣り町のことなどと、他人ごととして悠長に構えてはいられない状況になってきました。

本市では、昭和56年に「第二次総合計画」を立て、「人間と自然が調和した明るい都市づくり」を目ざしてきました。本年度は、これに引き続いて（自然を守り助け合う住みよい快適生活空間都市）を目標のひとつに、「第三次総合計画」が始動いたします。さらに、「みどりの基金」を設け、市民のみなさんのご協力を得ながら、市の緑を守り豊かにしていこうとしています。

今回のこのような動きの中で、各務原市緑のまちづくり委員会が市内にある巨木・名木を調査し、『各務原市の巨木・名木選』としてまとめました。ここに掲載されている樹木は、数百年に亘り年輪のひとつひとつに、人間の営みを含めた自然の歴史を刻み続けてきた生き証人でもあります。私たちは、これらを自然の貴重な財産として、またこれから緑を守りもっと豊かにしていくためのシンボルとして大切にしていきたいと思います。

この本が市民の方々に広く読まれ、ひとりでも多くの方々が自然に関心をもち、自然に親しみ、自然を愛していただけるようになれば、誠にうれしく思います。

最後になりましたが、各務原市緑のまちづくり推進委員会の方々や、直接調査に携わってくださった高山短大自然博物館の小野木三郎氏のご苦労に、厚くお礼申し上げます。

小野木三郎

調査・編集者のことば

緑は、全ての生命の基盤であり、身近に緑を保全することが、自分たちにとっても、子孫にとっても、とても大切なことです。

緑の葉を、枝先にたくさんつける樹木は、気をつけてみれば、身の回りのいたるところにあります。街路樹、庭木、公園木、鎮守の森、里山の雑木林にと……。

しかし、可憐で色とりどりの花を咲かせる山野草の人気に比べると、樹木は、目立たない花をつけるものが多いためか、関心を持つ人も少なく、身近にありながら、その実態はあまり知られていません。

長い年月を生き抜き、今に残る巨木・老木は、私たちに「生命の尊さ」を教えてくれます。樹木たちは、人間のように、言葉で語りかけることはしてくれません。しかし、時代を越えて、そこに立ち続けてきました。人間社会の変貌を、じっと見つめ続けてきた歴史の重みを秘めています。

巨木たちの肌に触れながら、"ぼくの生まれた昭和14年頃、君の周辺は、どんなようすだった？"と問いかけてみるのも、樹木たちとの付き合い術のひとつです。一年中緑の葉を繁らせている常緑の木たち、春の芽吹きから秋の紅葉と、四季の変化が微妙な落葉の木たち、その姿は、私たちの生活に安らぎや潤いを与えてくれます。

このガイドブックを手がかりに、ふるさとに生き残っている樹木たちへ、多くの方々が親しみをもっていただければと思います。親子で、ご家族連れで、四季折々、樹木たちに好奇の目を向けてほしいのです。樹木たちの"力強く生き続けている"姿から、自然の大きさ、すばらしさを学びとり、自然を大切にする心を強くしていただければ嬉しく思います。

調査員執筆者名簿

小野木三郎
現住所：各務原市那加芝者町34－2
TEL(058)－85－0748
高山短期大学飛騨自然博物館学芸員
岐阜県自然観察指導員連絡会々長

成瀬亮司（協力者）
岐阜東高等学校教諭
岐阜県自然観察指導員連絡会副会長

各務原の巨木・名木の調査基準

●はじめに

最近では、自然破壊・環境破壊が進み、自然保護の重要性が広く認識されてきました。そのために、自然林など植物群落・群集等の保護こそが、巨木の巨樹・老樹の保護よりも大切なのは当然です。しかしながら、幾多の風雪に耐え、時代を越えて立ち続けてきた『樹木』は、私たちに、自然の偉大さを教えてくれます。市内各地に残されているこれらの樹木は、先祖からの遺産であり、自然の財産として、子孫に伝えていく責任があります。

市内に見られる巨木・花木・保存木等を記録し、広く市民の方々に周知し、緑化思想・自然保護思想の普及・啓蒙に役立てていくため調査したものであります。

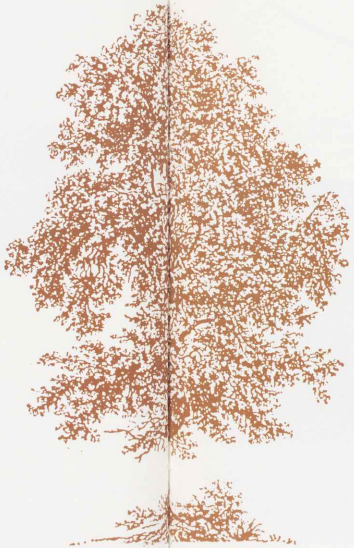
●調査の方法

①調査対象　○樹木のうち、目通り幹周　2.5m以上の樹木を対象としたが、それ以下のものも情報の得られた限り調査しました。
○歴史・文化・学術的に注目すべき樹木は、幹周にとらわれないこととしました。

②測定方法　○原則的には、目通幹周（地上1.5m）を測定し、それより下部で分岐するものなど特殊なものは、それに応じた測定をし、その内容を記録に明記しました。
○樹高については、長さ4mの棒尺を使用し、目測による概算の高さ測定としました。
○樹齢については、科学的に測定困難で行なっていない。その理由は以下によります。
☞外部の太さから推察するにしても、同じ樹種でも場所の状態により、生長の度合いが異なる。
☞これまでにも、樹齢700年と推測されていた木が、伐採され年齢を数えたら360年の事例がある。
☞従来から、推察樹齢が多く記述されているが、果して当たっているかどうか、不確実である。

●配列について

○分類体系に従い、裸子植物・被子植物の順としました。
○天然記念物指定の国・県・市町村区分指定基準は、確実な尺度が無い。しかし、できる限り、国、県、他の市町村からの比較情報を収集し、天然記念物指定への提言を含めるようにしました。



CONTENTS　目次

Ⅰ．裸子植物亜門

① いちょう科 …… ❹
② いちい科 …… ❻
③ まつ科 …… ❻
④ すぎ科 …… ❽
⑤ ひのき科 …… ❿

Ⅱ．被子植物亜門

① ぶな科 …… ⓬
② にれ科 …… ⓯
③ もくれん科 …… ⓲
④ くすのき科 …… ⓴
⑤ かつら科 …… ㉑
⑥ つばき科 …… ㉑
⑦ ばら科 …… ㉑
⑧ かえで科 …… ㉓
⑨ もちのき科 …… ㉔
⑩ もくせい科 …… ㉕
⑪ のうぜんかずら科 …… ㉖
⑫ やまもも科 …… ㉖
⑬ まんさく科 …… ㉗
●参考資料 …… ㉗
●各務原市の巨木・名木位置図 …… ㉘
●日本ラインぬまの森紹介 …… ㉚
●身近な樹木に親しみましょう …… ㉜
●各務原市みどりの基金 …… ㉟

種子植物門 SPERMATOPHYTA

Ⅰ．裸子植物亜門 GYMNOSPERMAE

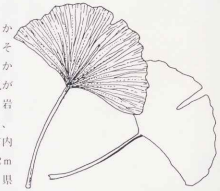
1．いちょう科 Ginkgoaceae

①イチョウ Ginkgo biloba L.

この仲間は、過去の地質時代に繁栄し、中生代から新生代の第三紀までに、多くの種がありました。現世には、イチョウ１種だけが生き残っており、中国の一部に野生するのみで、生きている化石植物の代表種です。日本には古い時代に中国から渡来し、街路樹、庭木、社寺の境内等に多く植えられています。

雌雄異株で、花は新葉の展開と同時に開き、雄花は葇だけの集合体、雌花は花梗の先端に裸出した２個の胚珠をつけるだけです。風によって運ばれ、胚珠に入った花粉は、成育し、初秋に精子が生じて受精します。葉は、秋に鮮やかに黄葉して落ちます。種子は、熟すと外種皮は多肉で悪臭があり、内種皮は硬くて白色、２～３の稜線があり、「ぎんなん」と呼ばれて食用にされます。老木となると、「ちち」といわれる気根が下がることがあり、「乳銀杏」と云われます。

カモの足に似た葉形であることから、中国では「鴨脚」と書かれ、その宋時代の音読み「ヤーチャオ」から「イチョウ」に転化したとの説があります。日本で最大のものは、岩手県内長泉寺のもので、樹高33ｍ、幹周14ｍ、岐阜県内では、高山市内国分寺のもので、樹高37ｍ、幹周10.2ｍです。幹周５～６ｍ級のものが、県の天然記念物に指定されている傾向があります。



1　河野西入坊の大イチョウ▼
下中屋町２－117－１　西入坊境内
市内最大のイチョウで樹高約20ｍ、幹周427cmの雄株です。昭和47年に、市指定の天然記念物になりました。「蓮如の杖」と呼ばれており、蓮如上人の巡錫の時に、杖にされたものが根づいたものと伝えられています。うらぼし科のビロードシダが幹に着生しています。葉に星状毛がたくさんはえ、ビロードの感じがするシダ類です。
「ちち」と呼ばれる気根も下がっています。

2　神明神社のイチョウ▼
前渡東町（長平）神明神社境内
高さ約25ｍ、幹周298cmで、枝はよく伸びています。

3　真墨田神社のイチョウ
鵜沼山崎町１丁目108　真墨田神社境内
高さ約15ｍのものが２本あり、雄株、雌株が並んでいます。
幹周は雌株221cm　雄株214cmです。

4　浄念寺のイチョウ
蘇原大島町５丁目105　浄念寺境内
高さ約12ｍ、幹周220cm。昭和63年に落雷にあい、枝は剪定され細長い樹形になっています。

5　学校給食センターのイチョウ▶
蘇原野口町給食センター入口わき
高さ約13ｍ、幹周200cm。樹勢は良好です。

6　旧岐大農場のイチョウ
那加雲雀町旧岐大農場一体
農場中央部には、高さ約20ｍ、幹周250cm、20ｍ・265cm、16ｍ・230cmという樹勢旺盛なものが３本あります。また那加福祉センター側の道路沿いには、高さ約25ｍで幹周220～240cmの巨木がイチョウ並木を形成し、12本ほどあります。

2．いちい科　Taxaceae

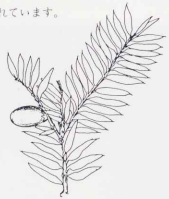
①カヤ　Torreya nucifera(L.) Sieb. et Zucc.

日本の暖帯・温帯に広くみられる常緑樹で、分布の北限は宮城県、南限は屋久島です。昔から庭木として植えられてきました。雌雄異株で、葉は線形、枝の左右に二列にならび、先は鋭くとがり、手でさわれば痛く感じます。花は5月頃で、雄花は葉腋につき、枝の下面に群生します。雌花は小枝の先につきます。

種子は秋に熟しますが、外種皮に包まれた円形で、長さ2～3cm、幅1～2cm、最初は緑色で、やがて紫褐色に熟します。外種皮が裂け、中から出てくる内種皮は淡赤褐色で、中の胚乳は食用、薬用（十二指腸虫くだし）にされ、また食用油もとれ、頭髪用にも利用されてきました。

材は淡黄色で、水湿にもくさりにくく、加工しやすく、みがけば光沢も出てきます。碁盤や将棋盤の材料としては最高級品とされています。

種内の変異が多く、変異品で天然記念物に指定されているものが多くあります。県内では、養老郡上石津町多良のシブナシガヤ（樹高6.4m・幹周160cm）が国指定、中津川市瀬戸のヒダリマキガヤ（7m・250cm）が県指定になっています。日本で最大のものは、埼玉県与野市の妙行寺にあるもので樹高22m、幹周800cmが知られています。

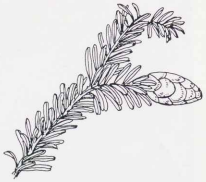


7　正法寺のカヤ
禍沼小伊木町2丁目26　正法寺境内
樹高約22m　幹周426cmという巨木で県内でも最大のカヤと思われます。国指定が幹周600cm以上、県指定が300～600cmという全国的な天然記念物指定の傾向からしても市、県指定の天然記念物として保護したいものです。雌株です。

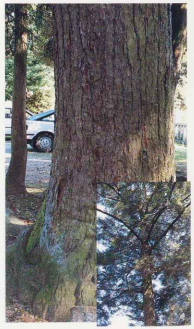
3．まつ科　Pinaceae

①ツガ　Tsuga sieboldii Carr.

日本の暖帯・温帯、福島県以南屋久島までに分布する常緑の高木で、時に庭樹として植えられます。樹皮は灰赤褐色で、ふぞろいな亀甲状に裂け、鱗片状にはげて落ちます。枝がこんでいて、葉も密につきます。葉は長さ1～2cmで、長いものと短いものが小枝の左右に並んでつきます。雄花は前年の枝の先につき、雌花も小枝の端に生じます。球果はだ円形で長さ2～3cmほど、初めは緑色で秋に熟すと褐色になり、枝の端にさがります。種子は小さくて、1ℓの重さは約280g、粒数で11万個ほどです。建築材、器具材、パルプなどになり、樹皮からタンニンがとれ魚網を染めるのに使われてきました。トガと呼ぶ地方もあり、笞（トガ）人をはりつけるのに用いたからとの語源説があります。



8　村国神社のツガ
各務原おがせ町3丁目　村国神社境内
樹高約20m　幹周240cmで、美濃平坦部に残されているツガとしては巨木であり、かけがえのない存在と思われます。



②モミ　Abies firma Sieb. et Zucc.

秋田県以南の暖帯・温帯に分布する日本特産の常緑高木で、日本海側には少なく、南限は屋久島です。樹皮は灰色で、老樹では暗灰色、鱗片状に残って剥れてはげます。葉は密生して二列に並んでみえ、若木の葉の先は、するどく二尖裂します。球果は、円柱形で長さは10～15cmもあります。材は白く軟らかで工作しやすく、板材として天井板や棺（かん）材にも使われてきました。

日本の温帯に残されている日本特産の針葉樹は、日本温帯林の起源の古さを物語るものであり、以下の三ケ所にみられるモミは、幹周は2mを越えるものがないとはいえ、学術的にも貴重な存在といえます。特にモミは、大気汚染に弱く、最近は全国的にもその被害が目立っていますから、特別に保護する必要がある樹種です。

10　那加第一小学校のモミ
那加手力町22－5　那加第一小学校内
樹高約12m　幹周170cm
他に少し小さいモミが1本あります。

11　神明神社のモミ
前渡東町（長平）　神明神社境内
樹高約20m　幹周155cm

9　五島耕蔵宅のモミ
各務山の前町4丁目
樹高約　15m　幹周190cm

③ヒマラヤスギ　Cedrus deodara Loud.

別にヒマラヤシーダーとも呼ばれます。原産地は西ヒマラヤからヒンズークシ東部で、日本に明治初期(1870年代)に渡来した常緑の高木です。樹形が優美なことから、庭園樹として各地に植えられ、日本の風土に順れ、あちこちで相当の巨樹が知られています。市内で最大樹と思われるものは、那加福祉センター正面玄関右手前のもので、幹周は277cmあります。

12　那加福祉センターのヒマラヤスギ
那加霞雀町那加福祉センター敷地内
樹高約20m　幹周277cm

13　市民公園のヒマラヤスギ▼
那加門前町3丁目　市民公園内
岐大跡地の市民公園内には、随所にヒマラヤスギの巨木がみられますが、その代表的なものの大きさは樹高約20mで、幹周が215cm・205cm・170cm・160cmといった大きさです。

④アカマツ　Pinus densiflora Sieb. et Zucc.

里山地内に広く分布し、急斜面ややせ尾根によく生育しています。樹皮は赤褐色で、このことからアカマツの名前があります。同じ二葉マツのクロマツよりも葉はやわらかいため雌松と呼ばれ、クロマツは雄松と呼ばれますが、どちらも雌雄同株で、同じ種の雌株・雄株という意味ではありません。一般にアカマツは、伐採されることが多く、巨樹として残され難いので金山寺のアカマツは市内最巨樹として貴重な存在です。昭和51年に市指定の天然記念物になっています。

14　金山寺のアカマツ
各務西町４丁目　金山寺境内
樹高約25ｍ　幹周205cm

４．すぎ科　Taxodiaceae

①スギ　Cryptomeria japonica (L.f.) D.Don

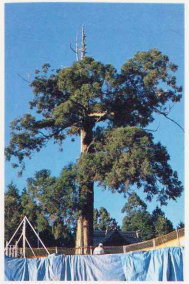
日本の特産で、北海道を除く全国各地にみられ、重要な材を供給し、古くからよく植林され、産地により“秋田杉”“吉野杉”などの品種名が数多く知られています。また、太平洋側と日本海側のスギも区別され、後者は多雪に適応し、下枝が下垂し、地面に接すると発根する性質があり、アシウスギの名がつけられています。

むかしから酒だる材として尊ばれ、建築・建具・船舶・車両・家具・器具などに使用され、樹皮は屋根をふくのにも使われ、葉はせんこうの材料になります。

全国的には屋久島の縄文杉などが有名で、樹高30ｍ、幹周16ｍ・13ｍ・11ｍもの巨樹があります。国指定は、幹周８ｍ以上、県指定は、幹周５～８ｍ以上という傾向からすると、市内のスギはそれを下まわる幹周のものしかありませんが、市指定の天然記念物にして保護する必要があります。

15　足立博俊宅のスギ
各務西町１丁目
樹高約25ｍ　幹周347cm

16　天王神社のスギ
蘇原東島町２丁目146　天王神社境内
樹高約20ｍ　幹周330cm、天頂生枝などかなり枯死している。

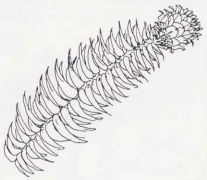


17　二宮神社のスギ
鶴沼西町１丁目　二宮神社境内
樹高約10ｍ　幹周318cm

18　村国神社のスギ ▼▶
各務おがせ町３丁目　村国神社境内
樹高約20ｍ　幹周249cm

②コウヨウザン　Cunninghamia lanceolata Hook.

常緑の高木で、中国原産。江戸時代に渡来したもので、日本では神社の境内などによく植えられています。樹皮はスギに似て、表皮はたてにさけはげます。葉は硬質で先端はするどく尖り、枝の両側に密にならんでいます。日本名は広葉杉（コウヨウザン）で、スギに似て葉が広いためといわれています。旧岐大農学部の見本園に植えられ、現在「植物園」内に残されている針葉樹の一種です。



19　植物園のコウヨウザン
那加門前町４丁目　旧岐大跡植物園内
樹高約20ｍ　主幹は二つに分枝し、127cm・119cmです。

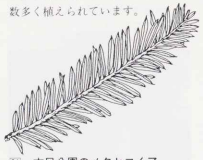
③セコイア　Seguoia sempervirens (Lamb.) Endl.

別に、イチイモドキ、セコイアメスギとも呼ばれ、大きいものは高さ100ｍにもなります。アメリカ西海岸、オレゴン州からカリフォルニア州に自生し、霧の多い湿った場所にはえ、常緑高木で、明治の中頃に日本に渡来し、各地の庭園などに植栽されています。樹皮は赤褐色で厚く深い溝をつくって、機織状にはげ落ちます。心材は赤色をおび、建築材、枕木、橋、家具材、器具材に用いられます。コウヨウザン同様、旧岐大農学部の見本園樹だったものです。

20　植物園のセコイア
那加門前町４丁目　旧岐大跡植物園内
樹高約20ｍ　幹周265cm。

④メタセコイア　Metaseguoia glyptostroboides Hu et Cheng

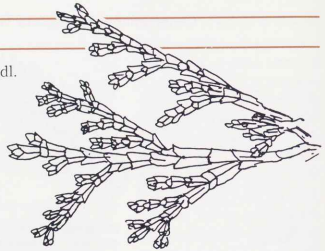
日本の新生代第三紀層から出た化石により、1941年に三木茂博士が名付けた属名の植物で、その後中国の四川省と湖北省の境である磨刀渓の奥地で現存するものが発見され、その種子からアメリカで育成された「生きている化石植物」の代表格。日本には昭和24年にアメリカよりもたらされ、以後さし木繁殖によって全国に広められました。秋に紅葉し、小枝ごと落ちる落葉の針葉樹で、別にアケボノスギの和名でも呼ばれます。幹周200cmを越える大木はありませんが、市民公園、那加福祉センターに数多く植えられています。



21　市民公園のメタセコイア
那加門前町３丁目　市民公園内
樹高約18ｍ　幹周190cmのもの２本
これよりひとまわり小さいものが、那加福祉センター周辺に数多く植えられています。

５．ひのき科　Cupressaceae

①ヒノキ　Chamaecyparis obtusa Endl.



木目が美しく、香りもよいうえに、耐久力もよいことから、日本では最も優良な用材で、木曽のヒノキは最も有名です。北限は福島県、南限は屋久島で、日本特産の針葉樹で、植林に最も多く用いられています。和名は「火の木」の意味で、大昔の人々が、この木をこすりあわせて火を出したことによるといわれています。樹皮は赤褐色で平らで滑らかです。たてに裂け目が入り、うすくはげ落ちます。平たい鱗状の葉が特徴でサワラとよく似ていますが、裏面の白い筋（気孔の集まり）がＹ字形模様で目立つのがヒノキで、サワラはＨ状に見えます。

日本で最大のものは、高知県窪川町のもので樹高20ｍ、幹周990cmが知られていますが、思いの外巨樹は残されていません。天然記念物指定の全国的な傾向としては、国指定が幹周７ｍ以上、県指定が3.5ｍ～７ｍです。津島神社のヒノキでも県指定級に達していませんが、巨樹が少ないだけにどれも保護したいものです。

22　津島神社のヒノキ
鵜沼羽場町１丁目216　津島神社境内
樹高約26ｍ　幹周296cm

23　白山神社のヒノキ
蘇原持田町２丁目　白山神社境内
樹高約20ｍ　幹周260cm

24　金山神社のヒノキ
各務西町４丁目　金山神社境内
樹高約22ｍ　幹周242cm

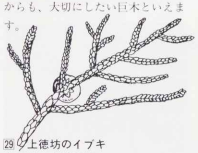
25　林家お稲荷さんのヒノキ
蘇沼羽場町７丁目201　林七郎氏持主のお稲荷さん
樹高約22ｍ　幹周241cm
他に幹周180cm、135cmの計３本があります。

26　八幡神社のヒノキ
蘇原坂井町１丁目81　八幡神社境内
樹高約20ｍ　幹周224cm

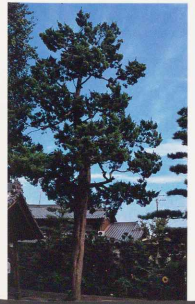
②イブキ　Juniperus chinensis L.

福島県以南、沖縄までの島や海岸の岸壁に生育し、しばしば社寺境内に栽植され、又盆栽としても鑑賞される常緑の小木で、時に高木になります。園芸品種が多く作られ、変種のカイヅカイブキは、枝が旋回して伸びる特長があり、特異な樹形で、生垣に多く植えられています。

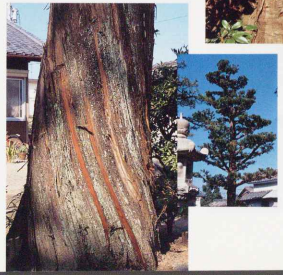
全国的な傾向としては、幹周５ｍ以上のものは国指定、2.5ｍ以上のものが県指定の天然記念物になっています。市内のものは、それには達していませんが、イブキの樹種と樹形からも、大切にしたい巨木といえます。



28　浄念寺のイブキ
蘇原大島町５丁目105　浄念寺境内
樹高約10ｍ　幹周200cm



29　上徳坊のイブキ
上中屋町　上徳坊境内
樹高約８ｍ　幹周168cm
庭木としてよく剪定され、手入れがゆきとどいている。



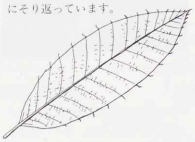
27　神明神社のヒノキ
那加西市場町５丁目　神明神社境内
樹高約20ｍ　幹周155cm

種子植物門　SPERMATOPHYTA
Ⅱ．被子植物亜門　ANGIOSPERMAE

1．ぶな科　Fagaceae

①アベマキ　Quercus variabilis Blume

本州の暖帯（山形県以西南）四国、九州から、台湾、中国にも分布する落葉の高木で、薪炭林の重要な樹種であり、樹皮のコルク層が最も厚くなるので、コルク利用のためにも植林されてきました。クヌギによく似た葉ですが、葉の裏面に小星状毛が密生して灰白色をしているので区別できます。アベは、岡山県地方の方言で「アバタ」の意味、樹皮にコルク層が発達して凹凸があるからで、マキは薪あるいは真木を意味しているといわれています。薪炭林は、15年～20年周期で伐採されてきたので、最近は山すその雑木林が失われ、アベマキの巨樹はきわめて珍しい存在となってきます。堅果はほぼ球形で、殻斗には長い鱗片があり、上部は外にそり返っています。



30　村国神社参道のアベマキ
各務おがせ町３丁目　村国神社参道沿い
樹高約20ｍ　幹周265 ㎝。

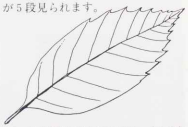
31　市民公園のシラカシ
那加門前町３丁目　市民公園内
樹高約15ｍ　幹周165㎝

②シラカシ　Quercus myrsinaefolia Blume

常緑広葉樹林帯、いわゆる暖地の山地に自生する常緑高木で、昔から人家のまわりにも植えられています。堅果は広だ円形で長さ1.5㎝ほど、殻斗は浅いわん形で、外面に６～８層の横輪があります。白カシは材が白く、幹が黒いことから逆にクロカシと呼ぶところもあります。

③アラカシ　Quercus glauca Thunb. ex Murray

暖帯の山野にある常緑の高木で、シイとともに照葉樹林帯の優占樹種です。本州宮城県以南、四国、九州から、台湾、中国、ベトナム、ビルマ、アッサム、ヒマラヤ（カシミアからブータン）に分布しています。関西地方でカシといえば、このアラカシを指し、カシ類の代表種で、木炭の良材として活用されてきました。従って、神社等に残されたもの以外には、巨樹がきわめて少ないのが実情です。堅果は球状だ円形、長さ２㎝前後、殻斗はわん状で環状のすじが５段見られます。



32　真墨田神社のアラカシ（２本）
鵜沼山崎町１丁目108　真墨田神社境内
樹高約13ｍ　幹周278㎝
樹高約10ｍ　幹周266㎝

33　津島神社のアラカシ（２本）
鵜沼羽場町１丁目216　津島神社境内
樹高約10ｍ　幹周215㎝
樹高約15ｍ　幹周170㎝
※２本とも枯が剪定・切り落とされ、自然な樹形ではありません。

34　神明神社のアラカシ
前渡東町（長平）　神明神社境内
樹高約18ｍ　幹周204㎝

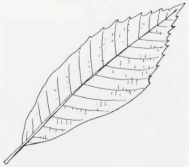
35　慈眼寺のアラカシ（２本）
各務おがせ町３丁目25　慈眼寺境内
樹高約20ｍ　幹周180㎝
樹高約20ｍ　幹周169㎝

36　若宮八幡神社のアラカシ
蘇原宮代町１丁目83－１　若宮八幡神社境内
樹高約11ｍ　幹周210㎝

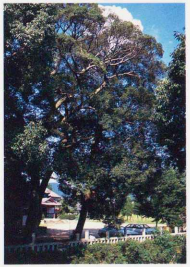
④イチイガシ　Quercus gilva Blume

暖地の山中に生える常緑の高木で、しばしば社寺境内に植えられています。本州の関東南部以西、四国、九州、台湾、中国に分布し、和歌山県以南の暖帯南部に多くみられます。材は強く堅く、建築器具、船のろ・かじ、車両、土木などに用いられ、薪炭、シイタケの榾木などにも使われます。葉のふちは、中部以上の先に鋸歯があり、裏面は葉脈が凸出しており、星状毛が密生して黄褐色です。堅果はだ円形で長さ２㎝前後、殻斗は浅いわん状で、外面に環状のすじがあります。

岐阜県内では、量的にも少なく、珍しい樹種といえます。



37　村国神社のイチイガシ
各務おがせ町３丁目　村国神社境内
樹高約20ｍ　幹周213㎝

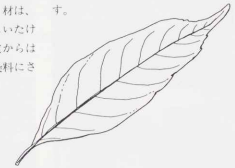


38　村国神社お旅所のイチイガシ
各務おがせ町３丁目　村国神社お旅所（西南端）
樹高約18ｍ　幹周166 ㎝

⑤ツブラジイ　Castanopsis cuspidata (Thunb. ex Murray) Schottky

照葉樹林を構成する代表種で、スダジイよりも、葉が小さく、果実も小さい点で区別され、別にコジイとも呼ばれます。6月ころ、新枝の葉腋に、上向きの穂状の花穂をたて、甘い香りを強く出しています。虫媒花です。種子は食用になり、材は、薪炭・建築、器具、家具、しいたけの榾木など用途が広く、樹皮からはタンニンがとれ、漁網用染料にされてきました。

美濃平坦部の原生自然景観と考えられる照葉樹林の優占樹種として、きわめて重要で貴重な存在といえます。普通は、ツブラジイ・スダジイを合わせて、単にシイの木と呼んでおり、両者の中間型のものもあります。



39　八坂神社のツブラジイ（3本）
蘇原伊吹町1丁目　八坂神社境内
樹高約15m　幹周300cm
樹高約15m　幹周213cm
樹高約18m　幹周215cm

40　清見寺のツブラジイ
各務山の前町4丁目200　清見寺境内
樹高約20m　幹周330cm

41　八幡神社のツブラジイ（2本）
蘇原坂井町1丁目81　八幡神社境内
樹高約18m　幹周295cm
樹高約18m　幹周241cm

42　神明神社のツブラジイ（2本）
那加西市場町5丁目　神明神社境内
樹高約20m　幹周270cm
樹高約20m　幹周320cm
（2本の合体木）

43　宝蔵寺のツブラジイ（3本）
蘇原東島町3丁目46　宝蔵寺境内
樹高約23m　幹周302cm
樹高約20m　幹周275cm
樹高約18m　幹周232cm

44　村国神社のツブラジイ（3本）
各務おがせ町3丁目　村国神社境内
樹高約20m　幹周250cm
樹高約15m　幹周215cm
樹高約15m　幹周215cm

45　慈眼寺のツブラジイ（3本）
各務おがせ町3丁目25　慈眼寺境内
樹高約20m　幹周236cm
樹高約20m　幹周230cm
樹高約20m　幹周200cm

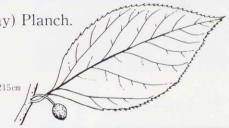
46　堀部克郎宅のツブラジイ
蘇原東島町2丁目43　堀部克郎氏宅
樹高約15m　幹周225cm

47　植物園のツブラジイ
那加門前町4丁目　旧岐大跡植物園内
樹高約20m　幹周205cm

48　市民公園のツブラジイ
那加門前町3丁目　市民公園内
（主要なもの5本）
樹高約15m　幹周235cm
樹高約15m　幹周190cm
樹高約15m　幹周185cm
樹高約15m　幹周185cm
樹高約15m　幹周170cm

2．にれ科　Ulmaceae

①ムクノキ　Aphananthe aspera (Thunb. ex Murray) Planch.



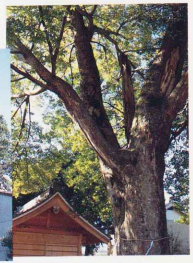
暖帯から亜熱帯に生える落葉高木で、本州の関東以西、四国、九州、朝鮮、台湾、中国（山東以南）に分布しています。しばしば人家付近や道路わきにも植えられ、ざらざらした葉は、骨や角細工をみがくのに使われてきました。黒く熟した果実は甘く食べられ、ムクドリなど人家近くにすむ鳥がよく食べに集まります。

材は器具、機械、建築、船舶、薪炭に用いられてきました。左右がやや不同の葉のふちには、するどい鋸歯があり、葉面は非常にざらつきます。雄花は、新枝のもとに集散花序をなしたくさん咲き、雌花は新枝の項部の葉腋に1～2個咲きます。核果は球形で径12mmほどです。幹周4mを越える巨樹が、市内には2本あります。

49　羽場のムクノキ
鶴沼羽場町4丁目　鉄道線路わき
樹高約18m　根囲り700cm
地上約1.5mのところで、幹周257cm・215cm・190cmの三幹に分岐しています。

50　市株島神社のムクノキ（２本）
前潟東町市株島神社境内
樹高約25ｍ　幹周438cm
樹高約25ｍ　幹周218cm
※延命と夫婦縁結びの神社として参拝者が多くあります。ムクノキの巨樹にたくさん実がなることに縁起をかついだものと思われます。

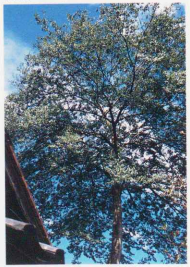
51　お旅所のムクノキ
各務おがせ町３丁目　村国神社お旅所　樹高約18ｍ　幹周364cm



52　武藤淑郎宅のムクノキ
鵜沼西町１丁目116　武藤淑郎氏宅
樹高約12ｍ　幹周350cm
※庭園木として手入れされ、主幹のみが目立ち、枝は剪定されています。

53　足立詔一郎宅のムクノキ　各務西町１丁目　足立詔一郎氏宅　樹高約20ｍ　幹周250cm　※２本が合体、分かれた主幹は190cm

54　後藤乙一宅のムクノキ
各務おがせ町４丁目22　後藤乙一氏宅
樹高約15ｍ　幹周207cm



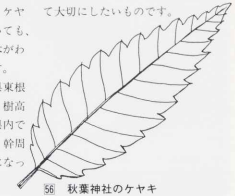
②ケヤキ　Zelkova serrata (Thunb. ex Murray) Makino

温帯から暖帯の山中に生える落葉高木で、川岸などにも点在しています。本州、四国、九州、台湾、中国に分布し、昔から屋敷林、社寺林としても植えられてきました。材は重要な建築材で、桃山時代から江戸時代にかけては、社寺の建築に多く用いられました。

樹皮は灰紫褐色でややなめらかですが、雲紋状にうすい片となってはげます。雄花は、新枝の下部に数個づつ集まって咲き、雌花は新枝の頂部に１個咲きます。果実は、ゆがんだ平たい球形で径４mmぐらいです。

もっとも親しみの深い樹木の一つですが、自然生えは少なくなり、ケヤキの名まえ、ことばは知っていても、実際に生えているケヤキの樹木がわからない人が多くなっています。

日本で最大のものは、山形県東根市の東根の大ケヤキが有名で、樹高28ｍ、幹周16ｍもあります。県内では垂井町のものが、樹高25ｍ、幹周８ｍで、県指定の天然記念物になっています。残念ながら市内には、幹周３ｍを越えるものはありませんが、以下ものは、ケヤキの見本巨樹として大切にしたいものです。



55　堀部克郎宅のケヤキ
蘇原東島町２丁目43　堀部克郎氏宅
樹高約20ｍ　幹周245cm

56　秋葉神社のケヤキ
鵜沼西町１丁目　秋葉神社境内
樹高約25ｍ　幹周222cm

57　深尾和洋宅のケヤキ
須衛町４丁目　深尾和洋氏宅
樹高約25ｍ　幹周225cm

58　沢井建設宅のケヤキ　各務おがせ町３丁目171　沢井建設
樹高約20ｍ　幹周152cm

③エノキ　Celtis sinensis Pers. var. japonica (Planch.) Nakai

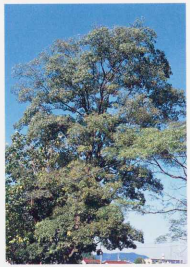
暖帯から亜熱帯の山中に生え、道路わきや社寺の境内にもみられる落葉の高木です。母種は中国にあり、その変種と考えられますが、中国のものは果実が長いものもありますが、日本のものと同じように円いものも多く同一種と考える説もあります。

江戸時代に、一里塚の目印に植えられた木です。葉は左右不同で、中部以上に目立たない鋸歯があり、葉脈は、基部から出る3脈が目立ちます。果実は球形で径6～8㎜、赤褐色に熟します。食用になります。

エノキの名まえは師の木ともいわれ、小鳥が好んでこの果実を食べ、糞とともに種子を落とすことによって、分布が広がります。材はケヤキの模擬材として用いられてきました。榎という字は、道路のほとり（一里塚）の大樹が、夏に木陰を作る夏の木ということで作られた和製の漢字です。

59　植物園内のエノキ　那加門前町4丁目 旧岐大跡植物園内 樹高約20ｍ 幹周264cm

60　運動公園のエノキ
那加門前町3丁目　市民運動公園内（市民公園東隣）
樹高約20ｍ　幹周248cm



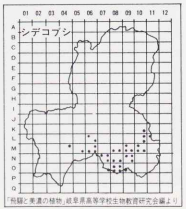
3．もくれん科　Magnoliaceae

①シデコブシ　Magnolia stellata (Sieb. et Zucc.) Maxim.

ベニコブシ、ヒメコブシの名で庭木として美しい花が鑑賞されるもので、かつては中国原産の渡来種と思われていました。花の咲く被子植物の中では、花のつくりが原始的で古い起源のもので、渥美半島のものは、国指定の天然記念物に指定されています。東濃地方を中心としたやせ山の丘陵地内の湿地に生き残っている遺存種で、本州中部西南部の特産植物です。早春に、紅色を帯びた白色の大きな花を開き、花径は7～10㎝ほどです。がく片と花びらの区別がなく、12～18片ほどあります。この細長い花被片が展開したようすを、玉ぐし、しめなわなどの垂れた「シデ」にたとえたコブシの仲間という和名です。

落葉の低木～小高木で、巨樹にはなりませんが、自然史の文化財としては一級品で、須衛町稲田園周辺の湿地群生地は、国指定天然記念物級の学術的な価値の高いものでしたが、埋立てられたりして、どんどん消えています。

東海自然遊歩道沿いには、まだかなり残っています。早急な保存対策が望まれる絶滅の危機にひんしている植物の筆頭格です。



『岐阜県の植物』岐阜県高等学校生物教育研究会編より

61　東海自然遊歩道沿いのシデコブシ自生
須衛町稲田園周辺部
須衛町1丁目地内など

②ユリノキ　Liriodendron tulipifera L.

北アメリカ原産で、明治の初めに日本に渡ってきたもので、公園や街路樹として各地に植えられています。初夏の頃、枝先に帯緑黄色の花を咲かせ、tulip treeと呼ばれることから、ユリに似たててユリノキと訳した和名があります。葉の形が面白く、半てんに似ていることから、ハンテンボクの名もあります。シデコブシと同様、花のつくりが原始的なモクレンの仲間の一種です。

62　那加福祉センターのユリノキ
那加雲雀町那加福祉センター敷地内
樹高約25ｍ　幹周355cm

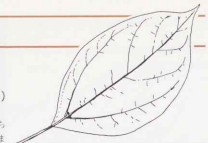
63　旧岐大農場内のユリノキ
那加雲雀町旧岐大農場内
樹高約18ｍ　幹周198cm

4．くすのき科　Lauraceae

①クスノキ　Cinnamomum camphora (L.) Presl

暖地に自生する常緑の高木で、古くから各地に植えられてきました。枝葉がよく茂り、病虫害がすくないため、暖地では生育がよくて長命です。樹皮は暗褐色で、たてに短冊状にやや深い割れ目ができます。葉は革質でつやがあり、もめば樟脳の芳香がし、三主脈が目立ちます。かつては、専売法によって、樟脳の製造以外には伐採が禁じられていました。

初夏の頃、目立たない小さな花がたくさん咲き、秋に黒く熟す実は、ヒヨドリなどの小鳥の好物です。南ほどよく栄え、九州には大木・巨木で天然記念物になっているものが多くあります。鹿児島県薩生町八幡神社のものは、樹高30m、幹周24.2m、幹周20m級のものが数多くあります。愛知県豊田市の八幡神社には、樹高18m、幹周7.6mの大木があります。県内では、南濃町松山諏訪神社のクスノキは、幹周8.7mで、県の天然記念物になっています。



64　都築紡績内のクスノキ（22本）
鶴沼山崎町１丁目　都築紡績敷地内
管理上、主幹も上部が切り取られ、枝打ちも行われて、本来の自然な樹形ではありません。従って、樹高は６m～12m、15mほどと異常に低いものとなっています。幹周を大きなもの順に記します。
1．402cm　2．338cm　3．317cm（２本）
4．305cm　5．302cm　6．286cm
7．275cm（２本）　8．264cm　9．239cm
10．235cm　11．234cm　12．232cm
13．230cm　14．219cm　15．215cm
16．209cm　17．206cm　18．196cm
19．191cm　20．178cm

65　春日神社のクスノキ
上戸町春日神社境内
樹高約22m　幹周395cm

66　小島市治宅のクスノキ
下中屋町３丁目　小島市治氏宅
樹高約22m　幹周296cm

67　真墨田神社のクスノキ
鶴沼山崎町１丁目108　真墨田神社境内
樹高約13m　幹周289cm

68　春日神社のクスノキ（７本）▶
下中屋町３丁目　春日神社境内、周辺
樹高約20m　幹周245cm
樹高約18m　幹周211cm
樹高約18m　幹周207cm
樹高約15m　幹周162cm
樹高約17m　幹周115cm
樹高約20m　幹周167cm
樹高約20m　幹周185cm

69　市民公園のクスノキ（３本）
那加門前町３丁目　市民公園内
樹高約15m　幹周225cm
樹高約15m　幹周210cm
樹高約15m　幹周165cm

5．かつら科　Cercidiphyllaceae

①カツラ　Cercidiphyllum japonicum Sieb. et Zucc.

北海道から九州まで、全国各地の水湿のある渓谷林をなす落葉高木で、被子植物の中では古い起源のものです。花は、がく、花びらなどの花被がなく、雄しべ、雌しべのみからなる裸花が咲き、雌雄異株です。

葉は広卵形で基部は心臓形、ふちに鈍鋸歯があり、秋には美しい黄葉、時にピンク系に紅葉するものも見られます。材は建築、器具、家具、彫刻などに広く用いられますが、山間渓谷でも、巨木・大木は少なくなりました。

70　運動公園のカツラ
那加門前町３丁目　市民運動公園内（市民公園東隣）
樹高約10m　幹周142cm（２本）

6．つばき科　Theaceae

①サザンカ　Camellia sasanqua Thunb. ex Murray

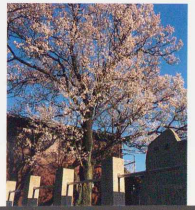
九州・四国及びその周辺の島々に生える常緑の小高木で、葉はツバキより小形で両端が尖り、花も11月～12月に咲き、ツバキより先に咲く花として鑑賞用にされ、庭木などに多く植えられています。江戸時代の初めから栽培され、花の色も白色だけでなく、紅色のものまで様々な園芸品種が作られています。

71　慈眼寺のサザンカ
各務おがせ町３丁目25　慈眼寺境内
樹高約４m　幹周130cm
※本来は「村国神社」にあったもので、明治時代になって神仏分離で、ここのお寺へ財産分けとして移植されたものです。よく剪定された鑑賞用の名木といえます。

7．ばら科　Rosaceae

①エドヒガン（ザクラ）　Prunus pendula Maxim. f. ascendens (M.) Ohwi

別にアズマヒガン、ウバヒガンとも呼ばれる落葉高木で、山林中に自生するものですが、鑑賞植物として栽植されたものも多くあります。樹皮は、暗灰褐色で、ふぞろいな浅い割れ目があります。葉に先立って花が咲く点は、ソメイヨシノと似ていますが、樹皮がたてに割れること、花が小型であること、葉が細長くて毛が多いこと、がく筒の基部が丸く急にふくれていることなどの点で区別されます。江戸彼岸、東彼岸の意味で、ウバヒガンは、葉の無いうちに花を開くことから、歯無しと葉無しをかけて、ウバの名をつけたといわれています。



72　信長公弓掛桜・的場桜
那加手力町４　手力雄神社境内
弓掛桜　樹高約７m　幹周222cm
的場桜　樹高約10m　幹周225cm
※空洞化・老朽化が進んでいますが、信長公ゆかりの桜の老樹として、市指定の天然記念物になっているし、市内のサクラとしては珍しい種です。

②ヤマザクラ　Prunus jamasakura Sieb. et Zucc.

本州中部以南の山地に生え、しばしば栽植される落葉高木で、4月のはじめ頃、赤褐色の新葉と同時に花を咲かせます。花が終わると、小形で球形の核果（さくらんぼ）を結び、紫黒色に熟します。ソメイヨシノとは、花時に葉が出ていること、葉や花の各部が通常は無毛なこと、密腺は、葉柄の上部につくこと、がく筒は円柱形で、下部がすらりと細いことなどで、区別できます。

74　白木栄次宅のヤマザクラ（２本）
須衛町２丁目1460　白木栄次氏宅
樹高約20ｍ　幹周220cm
樹高約20ｍ　幹周168cm

76　手力雄神社のヤマザクラ
那加手力町４　手力雄神社境内
樹高約10ｍ　幹周270cm

73　西巌寺のヤマザクラ
蘇原持田町２丁目　西巌寺境内
樹高約10ｍ　幹周290cm
※３月末～４月上旬が花期です。

75　熊野神社参道のヤマザクラ並木
鵜沼大伊木町６丁目　熊野神社参道沿
樹高約15ｍ　幹周316cm
※この他、幹周が270cm、265cm、248cm、234cm、230cm、205cmなど、200cm級のものが20本近く並木を形成しています。

③ソメイヨシノ　Prunus × yedoensis Matsum.

庭園、土手など、鑑賞用に全国で広く栽植されているサクラの代表種です。オオシマザクラとエドヒガンの間に生じた雑種起源の園芸種で、明治の初めに東京の染井村の植木屋が売り出して普及したといわれています。４月はじめに葉に咲き立って花を咲かせ、花弁は５枚、凹頭です。葉のふちには、するどい重鋸歯があります。果実はまれにしか成熟しないようです。

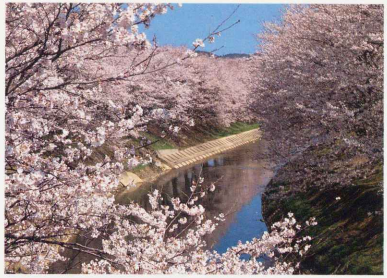
78　山の前公園のサクラ
各務山の前町４丁目198山の前公園（清見寺隣）
樹高約７ｍ　幹周210cm

77　那加第一小学校のサクラ
那加手力町22－５　那加第一小学校内
樹高約８ｍ　幹周290cm
※上記を筆頭に、約20本余の並木がありますが、地上１～２ｍのところで枝分れしており、どれもかなりの老樹です。

79　蘇原第一小学校のサクラ
蘇原野口町　蘇原第一小学校校庭
樹高約８ｍ　幹周205cm

80　市民公園のサクラ
那加門前町　市民公園北側並木
樹高約８ｍ　幹周235cm
樹高約７ｍ　幹周270cm
上記を筆頭に巨樹が８本ほど並木状にあります。

81　新境川堤防のサクラ（百十郎桜）▶
昭和５年３月に完成した新境川堤に地元住民や歌舞伎役者の市川百十郎が植栽した約1,000本の桜並木です。平成２年に財団法人・日本さくらの会から全国さくらの名所100選に選定されました。



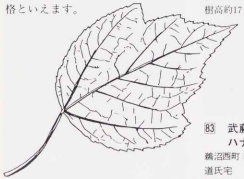
８．かえで科　Aceraceae

①ハナノキ　Acer rubrum L. var. pycnanthum (K. Koch) Makino

東濃地方を中心としたごく狭い範囲の山間の湿地に生える落葉高木で、北米東部にAcer rubrum L.が分布し、太平洋をへだてて隔離分布している著しい事例として、国、県の天然記念物に指定されているものが、県内、ことに東濃地方に多くあります。

葉は浅く３裂し、裏面は粉白色、秋に赤く紅葉して美しいものです。雌雄異株で、雄株が多数が集まって若葉に先立って開きます。紅色で美しく、目立つところから花の木の名まえがあります。

果実や葉の化石が、愛知県や和歌山県などの洪積世から出土しています。自然史の生証人的な植物の代表格といえます。

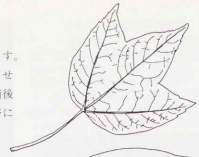


82　那加福祉センターのハナノキ
那加雲雀町那加福祉センター内
樹高約17ｍ　幹周205cm

83　武藤裕道宅のハナノキ
鵜沼西町１丁目　武藤裕道氏宅
樹高約12ｍ　幹周205cm

②トウカエデ　Acer buergerianum Mig.

中国原産の落葉高木で庭木や街路樹としてあちこちに植えられています。葉は、ハナノキのように浅く三裂し、下面はやや白色を帯びています。秋に真赤に紅葉します。唐カエデの意味で唐は中国を指しています。幹周が２ｍを越える巨樹はありませんが、樹高18ｍほど、幹周160cm前後のものが、植物園・市民公園一帯に植えられています。



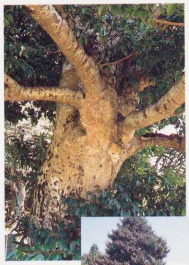
9．もちのき科　Aquifoliaceae

①クロガネモチ　Ilex rotunda Thunb. ex Murray

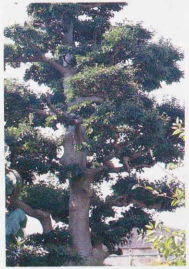
本州中南部、四国、九州から東南アジアにかけて分布する雌雄異株の常緑高木。葉が厚くて葉脈は目立ません。雌株につく果実は、球形で赤く熟し、枝一杯について美しいものです。赤い実をヒヨドリなどの鳥が好んで食べます。枝や葉が黒みがかっていることから黒鉄モチの名まえがあるようですが、乾くと黒くなること鉄色によるとの説もあります。果実の黄色いものが時にあり、キミノクロガネモチと呼ばれます。

84　長縄幸雄宅のクロガネモチ
各務おがせ町５丁目275　長縄幸雄氏宅
樹高約18ｍ　幹周322cm（雄株）
※竹林の中にあり、神木化され、お供物がしてあります。

85　熊野神社のクロガネモチ
鵜沼大伊木町６丁目　熊野神社入口右側
樹高約11ｍ　幹周249cm（雄株）



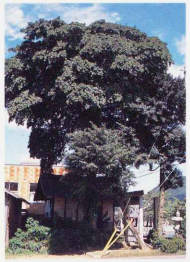
86　大竹良知宅のクロガメモチ
鵜沼南町６丁目215　大竹良知氏宅
樹高約13ｍ　幹周227cm（雌株）
※庭木としてよく手入れ、剪定された樹形です。



87　安積輝夫宅のクロガメモチ
蘇原野口町２丁目26　安積輝夫氏宅
樹高約18ｍ　幹周220cm
この他、幹周190cm、185cm、160cm前後のものなど、屋敷をぐるりとより囲んで約15本存在しています。

88　坂井弘宅のクロガネモチ▶
鵜沼西町１丁目170　坂井弘氏宅
樹高約10ｍ　幹周235cm（雌株）

89　神明神社のクロガネモチ
各務おがせ町６丁目　神明神社（おがせの池西）
樹高約15ｍ　幹周205cm（雌株）



90　深尾肇宅のクロガネモチ
須衛町４丁目21　深尾肇氏宅
樹高約15ｍ　幹周200cm

91　東方山薬王禅庵のクロガネモチ
各務おがせ町８丁目12　薬王院境内（東方山薬王禅庵）
樹高約12ｍ　幹周175cm（雌株）

92　若宮八幡神社のクロガネモチ
蘇原宮代町１丁目83－１　若宮八幡神社境内
樹高約８ｍ　幹周165cm

10．もくせい科　Oleaceae

①ヒトツバタゴ　Chionanthus retusus Lindl. et Paxt.

東濃地方を中心とした木曽川流域と、対馬に自生し、中国、台湾等にも分布する落葉高木です。ハナノキと同じように隔離分布の事例植物として、国、県指定の天然記念物に指定された自生地が、東濃地方には多くあります。

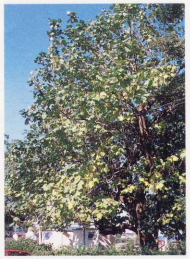
日本の自生地は、愛知県－岐阜県に限られており、見なれない樹木のため、関東あたりで植えられたものは『ナンジャモンジャノキ』と云われていたりします。自然の生き証人的な典型植物として貴重なものです。

93　運動公園のヒトツバタゴ
那加門前町３丁目　市運動公園内（市民公園東隣）
樹高約12ｍ　根回りで160cm

11. のうぜんかずら科　Bignoniaceae

①キササゲ　Catalpa ovata G. Don

中国原産で、暖地の庭によく植えられていますが、時に山間、河岸などに野生状となったものがあります。落葉の高木で、秋にササゲに似た線状の細長いさく果をたれさげます。中の種子は、扁平で両端に糸状の長い白毛をつけており、風に飛ばされます。花は初夏の頃で、枝の先に大きな円すい花序をつけ、ろうと状の花をたくさん開きます。材は良質で、中国では、版木とされます。



94　運動公園のキササゲ
那加門前町３丁目　市運動公園内（市民公園隣）
樹高約10m　根囲り350cm
※幹周228cm・160cmに分岐している。

12. やまもも科　Myricaceae

①ヤマモモ　Myrica rubra Sieb. et Zucc.

本州中部以南の暖地に生える常緑の高木で、朝鮮南部、琉球、台湾、中国に分布しています。開花は４～５月で、雌雄異株です。雌株にできる核果は、球形で径１～２cm、多数の多汁質の空起が密生し、熟すと暗赤色になり食用となります。ヤマモモの名はそれに由来しています。市内宝積寺のアカマツ林内に自生している巨木は、分布の北東限界地にあるものとして、植物分布地理学上貴重な存在です。昭和51年に市指定の天然記念物となり保護されています。

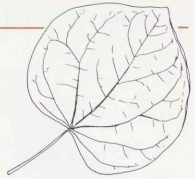
95　宝積寺山中のヤマモモ（雄株）
鵜沼宝積寺町１丁目　アカマツ林内（山腹）
樹高約７m　根囲り420cm、（150cm、140cm、110cm、119cmの幹周をもつ４枝に分かれています。）

96　市民公園のヤマモモ
那加門前町３丁目　市民公園内
樹高約６m　幹周165cm

13. まんさく科　Hamamelidaceae

①マルバノキ　Disanthus cercidifolia Maxim.

岐阜県内を中心とした本州中央部と、四国、広島県のごく一部のみに分布する落葉低木で、葉は庭木として植えられているマメ科のハナズオウにそっくりです。別に、ベニマンサクと呼ばれるのは、その花が赤いことによります。まんさく科のものは、早春に葉に先立って黄色の花を咲かせます（マンサク、ヒュウガミズキなど）が、マルバノキは、秋に葉がまさに落ちようとする頃、暗赤色の花を、二つづつ背中合わせに咲かせます。秋の紅葉も美しいものです。被子植物としては起源の古いもので、岐阜県を中心に遺存している日本の稀産種で、学術的にも、また鑑賞低木としても価値が高いものです。市内に自生は知られていませんが、那加福祉センターに植えられています。



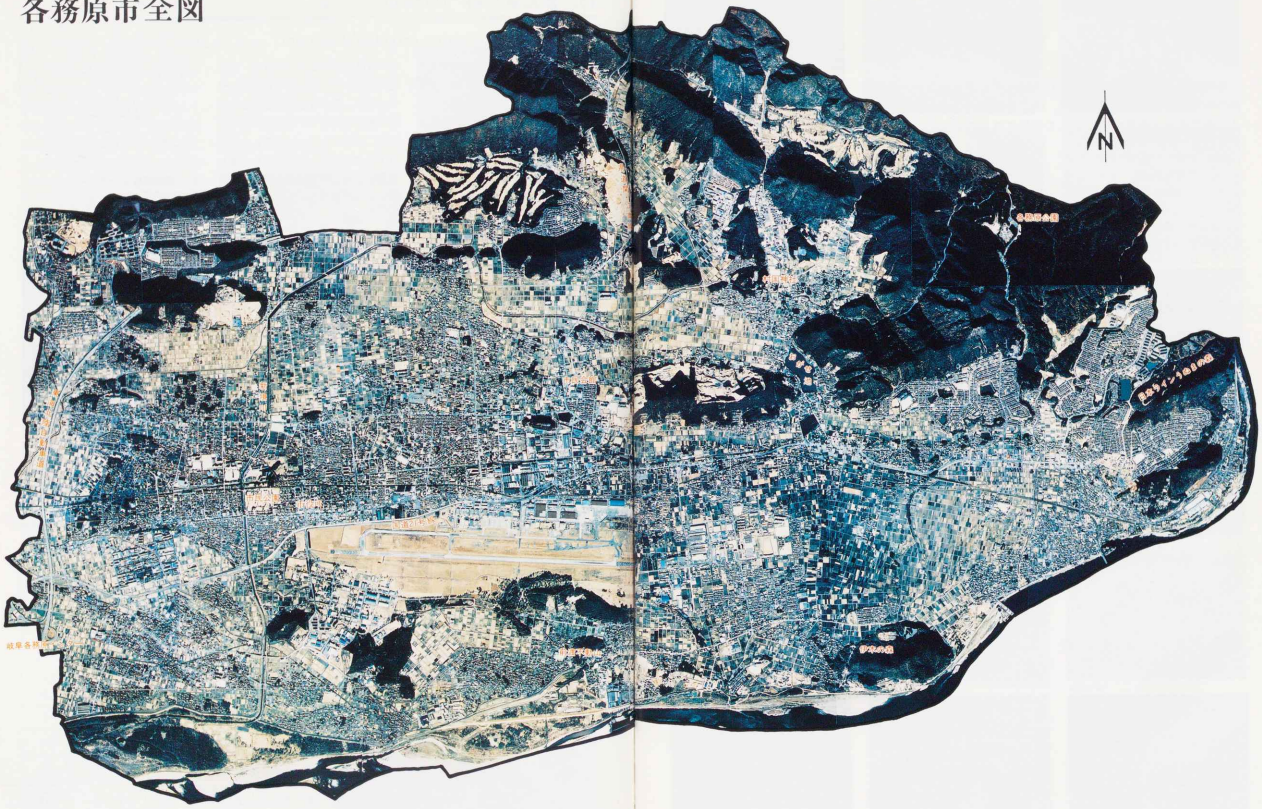
97　那加福祉センターのマルバノキ
那加霞亀町那加福祉センター内
高さ約２m程の低木ですが、枝ぶりもよく、学術的な見本樹として大切にしたいものです。

参考資料

種名 ＼ 幹周	裸子植物						被子植物																	計
	イチョウ	カヤ	ヒマラヤスギ	スギ	セコイア	ヒノキ	アベマキ	アラカシ	ツブラジイ	ムクノキ	エノキ	ユキ	リノキ	クスノキ	ヤマザクラ	ツメイヨシノ	クロガネモチ	キサゲ	ヤマモモ					
400cm以上	1	1								2				1					1					6
350cm－400cm（未満）				1					2				1	1				1						6
300－250				1					4					5	1		1							12
250－300	3		1		1	2	1	2	4	1	1			5	3	3								27
計	4	1	1	2	1	2	1	2	8	5	1	1		12	4	3	1	1	1					51

（城川堤防を除く）

各務原市全図



生活環境保全林

日本ラインうぬまの森

市街地に近い森林を整備改良し、国土保全と地域住民の保健休養の場とする生活環境保全林に、鵜沼茅場周辺一帯が指定を受け、「日本ラインうぬまの森」として整備するものです。

▲コナラの黄葉(紅葉)

近年、森林への社会的要請は森林浴などの保健休養面や、景観として環境面の整備強化について、特に高まっています。

このため、林野庁と県では、国土保全と地域住民の保健休養が期待できる都市近郊の森林に対し、治山事業として造成・改良を加え、森林のもつ公益的機能の発揮を図る、生活環境保全林整備事業を進めています。

自然と親しむ保健休養の森

県下で十五番目の生活環境保全林として「日本ラインうぬまの森」が整備されます。

場所は、飛騨木曽川国定公園内の鵜沼茅場周辺一帯で面積は六十六・二ヘクタール。

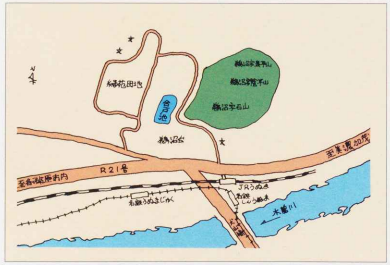
森の中では、昔をしのぶ旧中山道が毎日こぼれる杉木立と谷川沿いに延びており、苔むした石垣や、うとう峠を越えた旅人が目安とした一里塚など貴重な文化財産も現存しています。

また、この周辺一帯には野鳥も多く生息しており、これら自然をそのまま取り込んだ、環境保全と保健休養型の森づくりを行うもの。

散策道など整備

自然林造成として無立木地にコブシ、サザンカ、トウカエデなどの苗木約二千二百本を、自然林改良として現存する森林にヤマザクラ、サルスベル、モミジ、市の花ツツジなどの苗木約五万六千本を植栽し、四季折々の森林の美しさを身近に楽しんでいただけるよう、幅三㍍の散策道約七千三百㍍や芝生広場を設けます。

また市でも管理棟、展望台やあずまや、案内標識などの施設づくりを計画します。



日本ラインうぬまの森花木紹介

▲オオバヤシャブシ

▲シキミ

▲ヤブツバキ

▲ヤマツツジ

▲ヒサカキ

▲アオキ

▲ヤマイワカガミ

▲ヒカゲツツジ

▲モチツツジ

▲コンズイ

▲マンサク

▲シシガシラ

▲クサギ

▲コバノミツバツツジ

▲オカトラノオ

▲ショウジョウバカマ

▲アセビ

▲リョウブ

▲サルトリイバラ

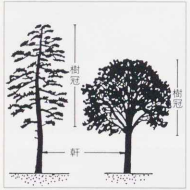
▲ママコナ

▲ノリウツギ

身近な樹木に親しみましょう。

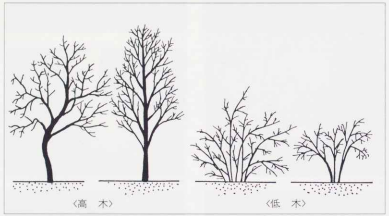
●木と草とは、どこが違うのでしょう？

庭先や公園、道路わき、そして山野には、いろんな樹木があります。草とは、どこが違うのでしょうか。樹木～木に共通する特徴は、「地上に伸びた幹や枝があり、冬でも枯れない」ということです。別の表現をすれば、「枝の上に、冬を越す芽があり、春になるとそれが伸び、新しい体をつぎ足して大きくなっていく」といえます。したがって、幹が年々太くなっていきます。高山帯に生える高さ10cmほどの小さなガンコウランやコケモモは、一見草花のように見えますが、上に述べた特徴を備えており、立派な木です。細い茎には、必ず年輪があります。高さだけでは、木と草は区別できません。



●高木と低木とは？

イチョウやサクラは、太い幹からたくさんの枝が出ます。そして、年月とともにどんどん地上に伸びて、高さ10m～30mにもなります。これに対し、ツツジやヤマブキなどは、はっきりした幹がありません。地面から、同じような強さの枝条が何本も立って樹冠をつくります。つまり、枝は数年で枯れてしまい、地上近くから伸びる新しい枝が、年々加わって株立ちとなる性質があります。木と草の中間的な植物と言えます。前者を高木、後者を低木と呼んでいます。

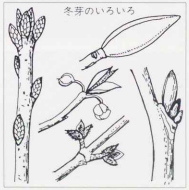


●冬を越す芽に注目しよう！

寒冷な冬は、植物たちにとっては、生育のしにくい期間です。厳しい冬の間に、緑の広い葉をつけているアラカシやツブラジイは、本州中部以南の暖かい地方に生育しています。一年中葉が枝に着いていますから、常緑樹と呼びますが、やはり冬芽はあります。

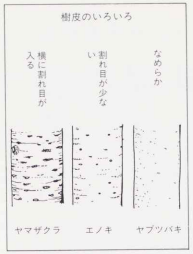
これに対して、本州中部以北に多い木は、寒い冬の間は、葉をすっかり落して春を待ちます。落葉樹と呼ばれますが、冬芽は、どんなところについているのでしょうか。

枝に冬芽を着けていることは、木としての大きな特徴です。この冬芽は、春になって開くと、いったい何になるのでしょうか。葉が出てくるものが「葉芽」花が出てくるものが「花芽」です。葉芽や花芽のようすも、じっくり観察しましょう。



●樹皮の特徴を見ましょう！

幹の一番外側は表皮です。表皮は、生きた細胞でできていますが、やがて死んでしまい、木が生長するに従って、割れ目ができ、いろいろな姿の樹皮となります。木の種類によって、樹皮はそれぞれ特徴があります。樹皮には、幹を作っている細胞が、呼吸するための空気の出入口～皮目があります。樹皮の、すじの入り方、皮のはげかたなどに目を向けましょう。樹皮の特徴を知ることも、樹木と親しくなる方法です。

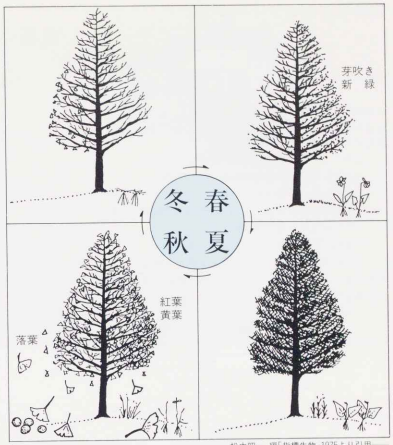


●四季を通して観察しましょう！

最近では、日常生活の中で、四季の移り変わりの微妙さを感じることが、少なくなりました。それだからこそ、身近なところで、我がファミリーの木……などと決めて、家族連れで四季折々、観察に出かけましょう。

芽吹きはどんなでしょう。どんな花が、いつ咲くのでしょうか。葉は枝に、どのように着いているのでしょうか。どんな果実（種子）がいつみのるのでしょうか。落葉のようすは？　冬芽は、どこに、どんなものがあるのでしょうか。訪れた時毎に、カラー写真を、家族一緒に樹木の下で撮ってはいかがでしょうか。

樹木の四季折々のようすと家族の顔ぶれが、我が家の記念写真アルバムに楽しい思い出の数々となって残ることでしょう。



松中昭一　編「指標生物」1975より引用

樹種＼樹勢	5	4	3	2	1
スギ	こずえの先はとがる	先が丸い	枝先だけに葉がつく	こずえが枯れる	
ケヤキ		枯れた小枝がある	枯れた小枝が増え、太い枝から小枝が出る	古い枯れ枝は落ち、枯れ枝が増える	

●樹木は健康でしょうか？

特に市街地の街路樹や公園、社寺の木は、都市化の波の中で、大気が汚れてくるにしたがい、だんだん弱ってきています。樹勢が衰えてきたことは、人間にとっての生活環境も悪くなっていることの「赤信号」です。木の健康状態が悪くなり、樹勢が弱くなってきたしるしは、

- 葉の量が少なくなっている。
- こずえに、枯れた枝が目立つようになる。
- 枝が細く短くなる。
- 葉が小さくなり、形もゆがむ。
- 葉の色が悪くなる。
- 樹形が、その木本来のものと変わる。
- 新芽の時期が遅くなる。
- 紅葉がきたなくなる。
- 季節はずれに落葉する。

などがあります。身近な場所に生えている樹木の、健康診断をしてみましょう。また、巨木、大木となって、神社などに多く見られるスギやヒノキ、ケヤキなどについては、樹勢の判定基準が5段階評価で作られています。あなた自身で、樹木たちの通信票をつてみましょう。

■著者のプロフィール

小野木　三郎

昭和14年10月16日　各務原市生まれ。
岐阜大学学芸学部生物学科卒業。
昭和37年4月1日　大野郡朝日中学校教諭
41年　〃　各務原市鵜沼第二小学校教諭
44年　〃　各務原市稲羽中学校教諭
51年　〃　岐阜県博物館学芸員
61年10月1日より高山短期大学飛騨自然博物館学芸員(現)

この間に、各務原市文化財審議委員をつとめ、また市内の理科の教師に呼びかけて各務原市植物同好会を結成。「各務原市の植物散歩」(教育出版文化協会刊)をとりまとめた。

かかみがはら巨木・名木めぐり
平成2年3月　発行
著　者　小野木　三郎
発行者　各務原市緑のまちづくり推進委員会
各務原市那加桜町1丁目69番地
TEL:0583－83－1111(代表)
印　刷　山興印刷株式会社
レイアウト　INKPOT

各務原市みどりの基金

緑の都市へ第一歩

●**名称**　各務原市みどりの基金
●**目的**　緑の多い本市も都市化の波が押し寄せ自然緑化環境が減少する反面、緑を愛する方や都市計画事業により緑化が保たれている現状であります。しかし、まだまだ空間が多くあり、これらを緑で覆うために市民・事業者と行政が一体となり緑化景観に取り組み心と体のリフレッシュを推進するため、有志の方々のご寄附を募り、それを基金として積立て幅広い事業を推進することを目的としています。
●**目標額**　1億円
●**基金の運用**　皆様からの尊いご寄附は有利な方法により基金に積立てし、これから生ずる運用益を緑のまちづくり推進委員会において緑地景観の促進と緑化推進に使用させていただきます。
●**お問い合せ先**　各務原市役所経済部農政課「みどりの係」
TEL:0583－83－1111(代表)

上記『みどりの基金』の趣旨にご賛同いただき、基金に申し込みしていただける方は、右の葉書きにご記入の上、切り取ってご投函ください。
追って"みどりの係"より手続きの方法等をご連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。

郵便はがき

5 0 4 - □□

切手

各務原市那加桜町1－69
各務原市役所　経済部
農政課みどりの係　行

氏名
(年齢　　才)
住所　〒　－
TEL(　　)　－

●本誌を読まれたご感想を簡単にご記入ください。

●本誌を何でお知りになりましたか。

（　　）

●みどりの基金に(いづれかを○で囲んでください)

（申し込みます・申し込みません）